

## 実現しよう国会で！ 派遣法抜本改正を求める5.14日比谷集会



5月14日、日比谷野外音楽堂で労働者派遣法の抜本改正を求める集会が開催されました。私たちも、JR総連の仲間達と共に参加しました。集会は、ナショナルセンターの枠を超えた共同行動として実現しました。世の中の理不尽を変えるために、今こそすべての労働者の団結した力が求められています。

小沢代表問題で野党第一党が迷走していることもあって、昨年から盛り上がった「労働者派遣法」抜本改正運動は、中断した形になっていた。が、ようやく、「登録型派遣の原則禁止、常用型派遣の無期限雇用の明示、などを盛り込んだ改正法案が国会に提出される。バラバラに孤立させられていた派遣労働者が立ち上がり、野党を動かした成果である。

これまでに解雇された派遣労働者は、数十万人に達している。派遣労働者をひとりの人間としてみない、取り替え自由の部品としか扱わないのが、この非情な「派遣切り」である。これほどの大量解雇があっても、さほどの社会問題にならないのは、大企業の労働組合が「対岸の火事」と眺めるだけだからだ。「臨時工は本工の防波堤ではない」との叫びが、一九五〇年代に社員化闘争をつくりだした。いまは防波堤が崩れて、「本工(社員労働者)」までも、解雇されそう

大量解雇があっても、さほどの社会問題にならないのは、大企業の労働組合が「対岸の火事」と眺めるだけだからだ。「臨時工は本工の防波堤ではない」との叫びが、一九五〇年代に社員化闘争をつくりだした。いまは防波堤が崩れて、「本工(社員労働者)」までも、解雇されそう



田中 加恵

だ。はじめにはたらく労働者が、生死の境にいるのは、自民党や公明党の支持者でも放置できないはずだ。いまや一団だけが安楽に暮らせる時代ではない。経済格差が激しい国からはいまや「たばこ病」、先進国にむかってくる時代でもある。弱者を犠牲にする繁栄は危険そのものだ。十四日、午後六時から東京・日比谷野音で派遣法改正の集会がある。(ルポライター)

### 派遣いじめ社会

すべての労働者の連帯で  
労働者の使い捨てを許さないぞ！  
労働者派遣法の抜本改正を実現しよう！

派遣法改正をめぐる野党の動きがにわかに活発化している。十三日、社民党と国民新党が派遣法改正の法案要綱を発表した。年末と年度末の派遣切りによって、たくさん派遣労働者が仕事や住まいを失った。減産に伴う余剰労働者を切り捨てやせ細った企業が、景気回復時に再び労働力を必要としたとき、決して直接雇用しようと思わず、再び今回と同じように簡単に使い捨てができる「登録型派遣」で労働力を調達しようとするのは目に見えている。そんなことをさせないためにも「登録型」を使い捨て派遣を規制しよう

派遣法改正をめぐる野党の動きがにわかに活発化している。十三日、社民党と国民新党が派遣法改正の法案要綱を発表した。年末と年度末の派遣切りによって、たくさん派遣労働者が仕事や住まいを失った。減産に伴う余剰労働者を切り捨てやせ細った企業が、景気回復時に再び労働力を必要としたとき、決して直接雇用しようと思わず、再び今回と同じように簡単に使い捨てができる「登録型派遣」で労働力を調達しようとするのは目に見えている。そんなことをさせないためにも「登録型」を使い捨て派遣を規制しよう



川西 重一

というのが今回の法案要綱の趣旨だ。五月にも国会に法案提出の見込みだ。派遣切りを厳しく批判する共産党も協調するものと思われる。十四日には、東京・日比谷野音で派遣法抜本改正を実現するための集会が開かれ、野党各党が決意を表明した。この日、民主党が大きく舵を切った。これまで登録型派遣の原則禁止に消極的だった民主党が、専門派遣以外は常用雇用とする改正案を決めたのだ。いつでも使い捨てられる形で労働力を確保したい企業のニーズを優先して規制緩和されてきた派遣法だったが、安心して働き続けたいと願う労働者の立場に立った改正が手の届くところまで来ている。(派遣ユニオン書記長)

### 「使い捨て」抑止に光